

今週の為替相場見通し(2017年11月27日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		111.07 ~ 112.71	111.54	110.50 ~ 112.50
ユーロ	(ドル)		1.1713 ~ 1.1944	1.1933	1.1700 ~ 1.2100
(1ユーロ=)	(円)		131.16 ~ 133.23	133.10	131.00 ~ 135.00
英ポンド	(ドル)		1.3189 ~ 1.3360	1.3345	1.3200 ~ 1.3400
(1英ポンド=)	(円)	*	147.64 ~ 149.37	148.79	148.00 ~ 150.70
豪ドル	(ドル)		0.7532 ~ 0.7638	0.7619	0.7450 ~ 0.7730
(1豪ドル=)	(円)	*	84.50 ~ 85.32	84.95	84.00 ~ 85.80

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替営業第二チーム 高田 裕

(1)今週の予想レンジ: 110.50 ~ 112.50 円

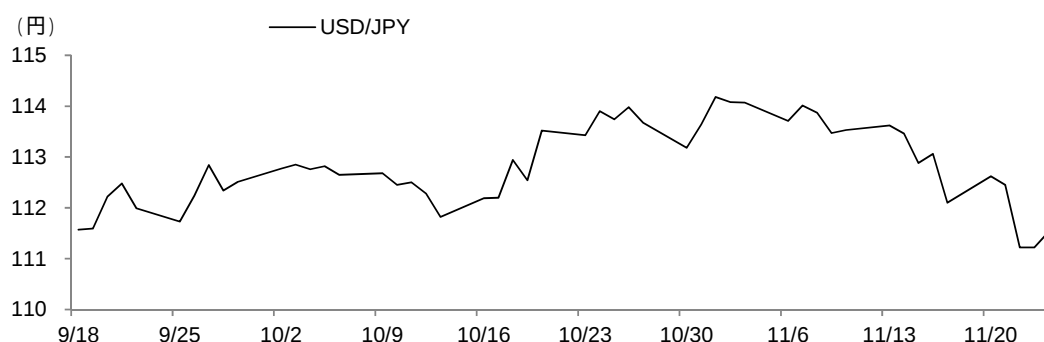
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は週後半にかけて下落する展開。週初20日に112円台前半でオープンしたドル/円は、一時112円丁度を割り込んだが、米2年債利回りが約9年ぶりとなる水準まで上昇すると112円台前半を回復。更に良好な米10月景気先行指数などから週高値となる112.71円まで値を上げた。翌21日は米感謝祭(23日)の祝日を控えポジション調整からドル売り優勢となるも堅調な米10月中古住宅販売件数などからドルが買い戻され112円台半ばで揉み合い推移した。週央22日はイエレンFRB議長が講演で「早すぎる引き締めはインフレ率を2%未満に留める」と述べたことがハト派的に捉えられるとドル/円はじり安。その後、弱い米10月耐久財受注から112円丁度を割り込むとストップを巻き込みながら111円台半ばまで下落した。更にFOMC議事要旨(10月31日～11月1日開催分)において物価の低迷が中期的に継続するリスクを指摘した参加者が少なくなかったことが明らかになると、111円台前半まで値を下げた。翌23日は週安値となる111.07円をつける場面もあったが、日米が祝日となる中、111円台前半で小幅に推移した。週末24日は弱い米11月製造業PMI(速報値)が嫌気されたものの年末商戦への期待感の高まりから米株が上昇するとドル買い優勢となり、結局ドル/円は111円台半ばで越週した。

今週のドル/円は手掛かり難につきレンジ相場を予想する。注目のイベントとしては28日(火)のパウエル次期FRB議長候補による議会証言や30日(木)の米10月個人消費支出(PCE)デフレーター発表であろう。足許、次回12月FOMCでの追加利上げが織り込まれる状況下、市場ではFRBによる来年以降の利上げペースに関心が集まっている。低迷が続く米国の期待インフレ率に対して、パウエル氏の景気認識やインフレ見通しは今後の米金融政策を見極める上で重要であろう。ただし就任前の発言によって敢えて今後の政策の選択肢を狭めるメリットは多くないと思われ、今回は無難なコメントに留まるのではないかと考える。またPCEデフレーターについては引き続き低位で推移との事前予想であり、大きく物価認識を変えるものにはならないと思われ、ドル/円への影響は限定的であろう。その他のイベントとしては27日(月)から米上院で税制改法案の審議が開始され、30日には石油輸出国機構(OPEC)総会が開催される。

(3)先週までの相場の推移

先週(11/20～11/24)の値動き: 安値 111.07 円 高値 112.71 円 終値 111.54 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

(1) 今週の予想レンジ: 1.1700 ~ 1.2100 131.00 ~ 135.00 円

(2) ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

先週のユーロ相場は上昇する展開となった。週初20 日に対ドルで1.18 台前半、対円では132円台前半でオープン。メルケル独首相による連立協議が決裂したことを受け対ドルで1.17 台前半、対円では一時131.16円まで急落。しかし、ユーロ圏経済の底堅さは変わらないとの見方から対ドルで1.18 台前半、対円では132円台半ばまで買い戻された。しかし、メルケル首相が「少数与党で政権を樹立するより再選挙が望ましい」と発言し独政治情勢の先行き不安が強まると、再び1.17 台前半に反落した。21日は「量的緩和の終了に向かう中でガイダンスの文言に関しては小刻みに変更を加えていくだろう」とのECB関係者談が伝わると、対ドルで一時週安値となる1.1713 をつけた。対円でもじり安推移となり131円台後半まで値を下げた。その後は反発したが、独政治情勢の先行き不透明感が嫌気され1.17 台前半で上値重く推移。22 日は1.17 台半ばを挟んで一進一退の展開となっていたが、米10月耐久財受注の冴えない結果を受けてドル売り優勢地合いになると1.18 手前まで上昇。さらにFOMC 議事要旨の内容がハト派的と捉えられドル売りの流れが強まると1.18 台前半まで上値を伸ばした。23 日はメルケル首相が率いるキリスト教民主・社会同盟(CDU・CSU)と第2 党である社会民主党(SPD)の大連立を探る動きが伝わると1.18台半ばまで上昇。24日は独11月Ifo業況指数が過去最高となったことに加えて、SPDが連立協議に応じる可能性を示唆したことでユーロ買いが進行。対ドル・対円でそれぞれ週高値となる1.1944・133.23円まで上昇。その後も底堅い推移が続き対ドルで1.19台前半、対円では133円台前半で越週した。

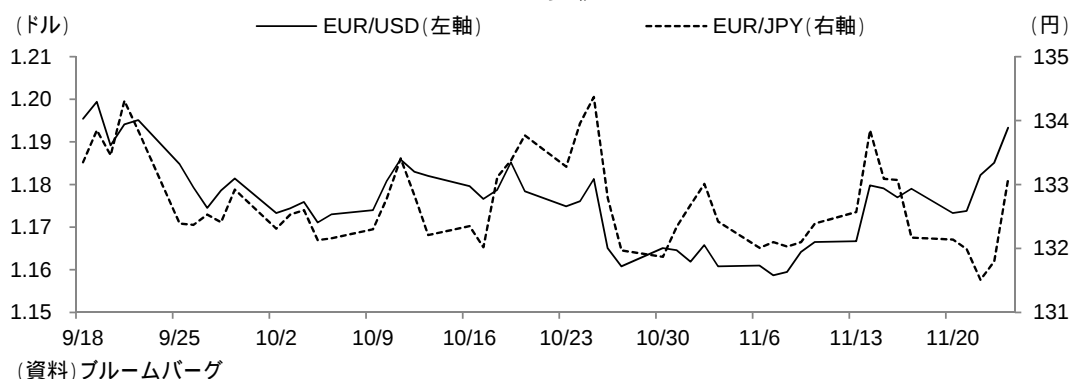
今週のユーロ相場は底堅い推移を予想する。先週は独連立協議決裂を受けて、欧州政治に対する不透明感が増大したことからユーロ売りが進む局面が見られた。しかし、政治空白への懸念からSPDに対する連立協議入りの圧力が強まっており、これを受けてSPD幹部からは協議する用意があることが示された。市場にさらなる混乱を招きかねない再選挙は回避できるとの見方が強まっており、政治リスクを背景としたユーロ売り圧力は一旦和らいだと言えそう。政治リスクが後退することとなれば、金融政策に注目が集まりそう。先週公表されたECB議事要旨では9か月延長された拡大資産購入プログラム(APP)に関し、再延長の可能性を含むオープンエンド型にするのか、終了時期を明示するクローズド型にするのかについて意見対立があったことに注目が集まったが、金融正常化に向けてのプロセスが進展していることには変わりはない。経済指標の堅調な結果が確認されれば、金融正常化が一段と早まるとの思惑につながりユーロ買いが強まることとなるだろう。また、ドル相場について見てみると、12月利上げは既に織り込みが進んでいることや、米税制改革に対する不透明感が高まっていることから足許ではドル売り優勢の展開が続いている。先週公表されたFOMC議事要旨の内容がハト派なものであったこともあり、来年以降の利上げ期待は盛り上がりづらい状況となっており、弱いドル相場もユーロ相場を支える要因となりそう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(11/20~11/24)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1713 高値 1.1944 終値 1.1933

(対円) 安値 131.16 高値 133.23 終値 133.10



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.3200 ~ 1.3400 148.00 ~ 150.70 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、予想外の堅調推移。もっとも、対ドルでは明確に上昇し、対円でも水準は切り上げたものの、対ユーロでは明確な下落を見せた。20日、ポンドは主要通貨に対して全面高。これはEU離脱に際し英がEUに対して支払う離脱金(所謂ブレグジット・ビル)に関し、「メイ首相が(従来示唆されていた200億ポンドから)400億ポンドへの増額で閣内の同意を取り付けた」との報に反応した値動きと考えられた。英側から譲歩することで肝心の貿易交渉開始を早め、19年3月の離脱期限までに交渉がまとまる可能性が高まるとの読みを好感した模様。注目された22日の(中間)予算は、住宅建築促進や国民保険サービス拡充のための予算配分、30万ポンドを上限に初回住宅購入者に対する印紙税を免除するなどといった財政出動策が目をつけたが、金融市場に与えた影響は僅か。敢えて言うなら、予算発表直後、ポンド売りが先行したのは、英経済成長見通しの大幅引き下げ(例えば2017年のGDP予想を、3月予算時の+2.0%から+1.5%に引き下げた)に対する反応と考えられた。もっとも、そもそも当たらない(頻繁に大幅修正される)経済予想を真に受けてポンドを売り買いするのも間の抜けた話で、ポンドは程なく反発。その後、むしろ堅調に推移した。このポンド反発局面で、特に対ドルで本格的にポンドを押し上げたのは、同日発表された米連銀公開市場委員会議事録。12月利上げはほぼ確定的と読まれたものの、複数の委員が「インフレ率の低さに対する懸念を示した」との内容が嫌気され、ドル全面安を招いた。週引けに掛けポンドが特に対ユーロで売り込まれたのは、先週頓挫した独連立交渉に関して、22日以降、キリスト教民民主・社会同盟と社会民主党との大連立の可能性が浮上、それに対する期待が醸成したユーロ堅調地合いの中で、24日発表された11月Ifo景況感指数が2か月連続の上昇で過去最高を更新したことで、ユーロ全面高が進んだ結果と考えられた。

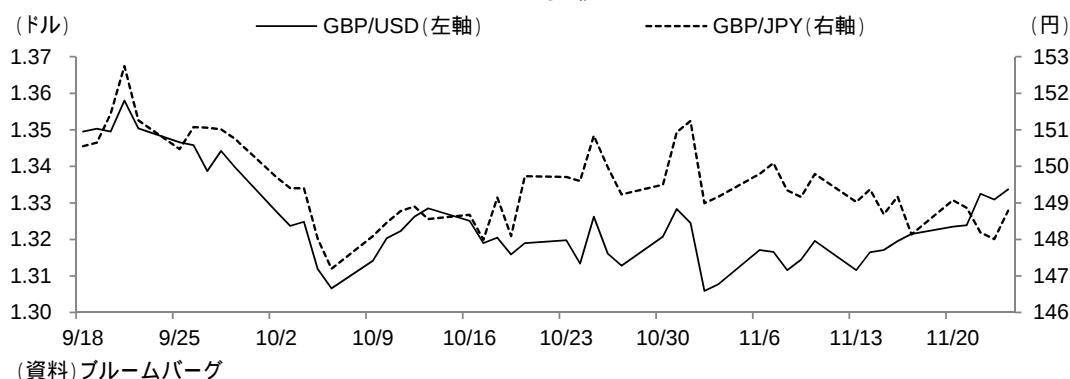
今週の英ポンド相場は、方向感を欠いた横這いを中心に、EUとの離脱交渉の進捗次第でポンド高にもポンド安にも振れる可能性を見込む。「EU側の主張する600億ユーロに、英側が当初提示した200億ポンドの(ほぼ)間を取って400億ポンド」といった安易な交渉が成立する可能性が高いとは思えないが、離脱交渉の進展(貿易交渉開始の是非)がポンド市場にとって目先の大きな注目点である事実は疑う余地はない。EU側にとっても交渉を徒に先送りすることの利は小さく、600億ユーロと400億ポンドを交渉のたたき台に、並行して貿易交渉も進めるような柔軟な対応は展望できなくもない。そのような展開をポンドが好感して上昇する可能性も考えられなくはないだろう(逆に交渉が決裂すれば、当然、ポンド売り圧力は高まるものと思われる)。ただし、貿易交渉が始まること、合意に至ることとは全く別次元の問題で、引き続き、英/EU間の通商にWTOルールが適用される可能性は高いと考える。ポンドの先行きにも楽観は禁物であろう。先週、ポンドは対ドルでこそ上昇したものの、対ユーロでは下落。対円でも、終値同士を比較すれば、確かに前週比で上昇したものの、実のところ横這いと言った方が実態に近い。つまり、対ドルでのポンド上昇もその実はドル安で、今後を展望する上でもドルの動向を見極める目が必要になる。この点、12月8日の米11月雇用統計や、13日の米連銀公開市場委員会結果発表などは非常に興味深い、そういう目線で、今週の米経済指標は押し並べて小粒。英経済指標などでも、今週は目立った材料は見当たらない。

(3) 先週までの相場の推移

先週(11/20~11/24)の値動き:

(対ドル) 安値 1.3189 高値 1.3360 終値 1.3345

(対円) 安値 147.64 高値 149.37 終値 148.79



4. 豪ドル

(1) 今週の予想レンジ: 0.7450 ~ 0.7730 84.00 ~ 85.80 円

(2) ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

先週の豪ドル相場は、対ドルで週後半にかけて上昇、対円では85円付近で揉み合う展開。週初20日は対ドルで0.75台半ば、対円で84円台後半レベルでオープン。21日に発表された11月豪州準備銀行(RBA)議事要旨は、10日に発表された金融政策報告(SMP)と同様の内容であったが、賃金上昇ペースを巡る不透明感に対して警戒感が示されたことがややハト派に解釈され、対ドルで週間安値となる0.7532までに下落し、約5か月振りの安値をつけた。しかし同日、ロウRBA総裁が「近い将来に政策を調整する強い理由ない」と豪経済に対して慎重な見方を示す一方で、「政策金利に対する次の手は引き上げになるだろう」と、利上げに言及したことがタカ派に捉えられ、対ドルで0.7590超えまで上昇した。翌22日、イエレンFRB議長の講演がハト派的と捉えられて豪ドルは対ドルでじり高の展開。さらに、米10月耐久財受注が市場予想に反し前月から減少したことに加え、FOMC議事要旨において物価の低迷が中期的に継続するリスクを指摘した参加者が少なくなかったことが明らかになると、米金利が低下する中、豪ドルは対ドルでレジスタンスとして意識されていた0.7600を明確に下割れし、ストップを巻き込みながら0.7620超えまで上昇。翌23日も日米が祝日となる中でこの流れが続き、週間高値となる0.7638まで上昇。対ドル、対円それぞれ0.7620、85円ちょうどレベルで越えた。

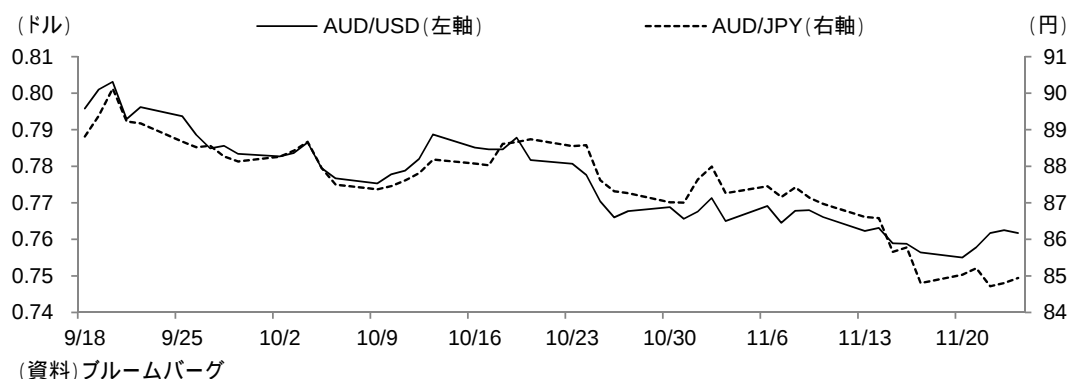
今週の豪ドル相場は上値の重い展開を予想。マーケットは、豪経済に対して懐疑的な見方を強めている。昨今の経済指標を振り返ると、10月に発表された7～9月期CPI、11月に発表された7～9月期賃金指数ともに市場予想を下回る弱い結果となっており、インフレが高まらない状況が確認されている。家計債務が拡大する状況下で、消費の弱さも指標に現れており、RBAの利上げ期待は引き続き高まりづらい。先週の為替市場はドル売り優勢の展開となり、豪ドルは対ドルで上昇したが、感謝祭に前後したポジション調整の動きが一因であり、利上げに向かうFRBとRBAのコントラストに変化はない。テクニカルにも下値不安が払拭されていないことから、豪ドルの上値が重い展開は続きやすいだろう。来週は、30日(木)に豪10月住宅建設許可件数、12月1日(金)に11月商品指数が発表される。また、30日(木)にウィーンでOPEC総会が開催される予定であり、コモディティ価格の動向には注意したい。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(11/20～11/24)の値動き:

(対ドル) 安値 0.7532 高値 0.7638 終値 0.7619

(対円) 安値 84.50 高値 85.32 終値 84.95



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。